

玄海原子力発電所 3号機 MOX燃料使用差止訴訟
答弁書「当社の主張」の概要について

原子力発電及びプルサーマルの必要性

原子力発電はエネルギー安定供給、環境保全、経済効率性の観点から優れた発電方法である。また、我が国では、ウラン資源の有効利用、放射性廃棄物の低減及び核不拡散の観点から、原子燃料サイクル確立を原子力政策の基本方針としており、当社においても、この原子燃料サイクル確立の一環であるプルサーマルを着実に進めている。

原子力発電所における安全性

原子力発電所は、放射性物質を閉じ込める構造とした上で、多重防護の考え方を取り入れており、万一の異常の際、原子炉を確実に「止める」「冷やす」「閉じ込める」ことができるよう設計されている。また、こうした設計の妥当性確認、工事計画の妥当性確認および使用前・使用中の検査を通じて、設備の健全性について各段階で国の確認を受けている。

更に、原子力発電所を運転する要員の資質向上、品質保証活動も実施しており、原子力発電所の安全確保の運用を適切に行っている。

MOX燃料の使用に当たっても、こうした安全性にかかる確認を行っている。

燃料の設計・製造・運用管理，貯蔵管理

MOX燃料を含む、原子力発電所で使用する燃料は、安全審査指針等に基づき、燃料の使用期間を通じ、圧力・温度の変化、化学的効果、ペレットの変形、燃料棒内圧変化等を考慮して、十分な強度を有するように設計、製造を行っている。

また、ピット内の使用済燃料は水温・水位等を適切に保ち、管理された状態で安全に貯蔵・保管している。

原子燃料サイクル

原子燃料サイクルの確立に向け、六ヶ所再処理工場の建設が進められているほか、電力各社ではプルサーマルの着実な推進に向けた取り組みを行っている。

以上